

414
A 3784



朽木縣下麻苧ノ事聞取書

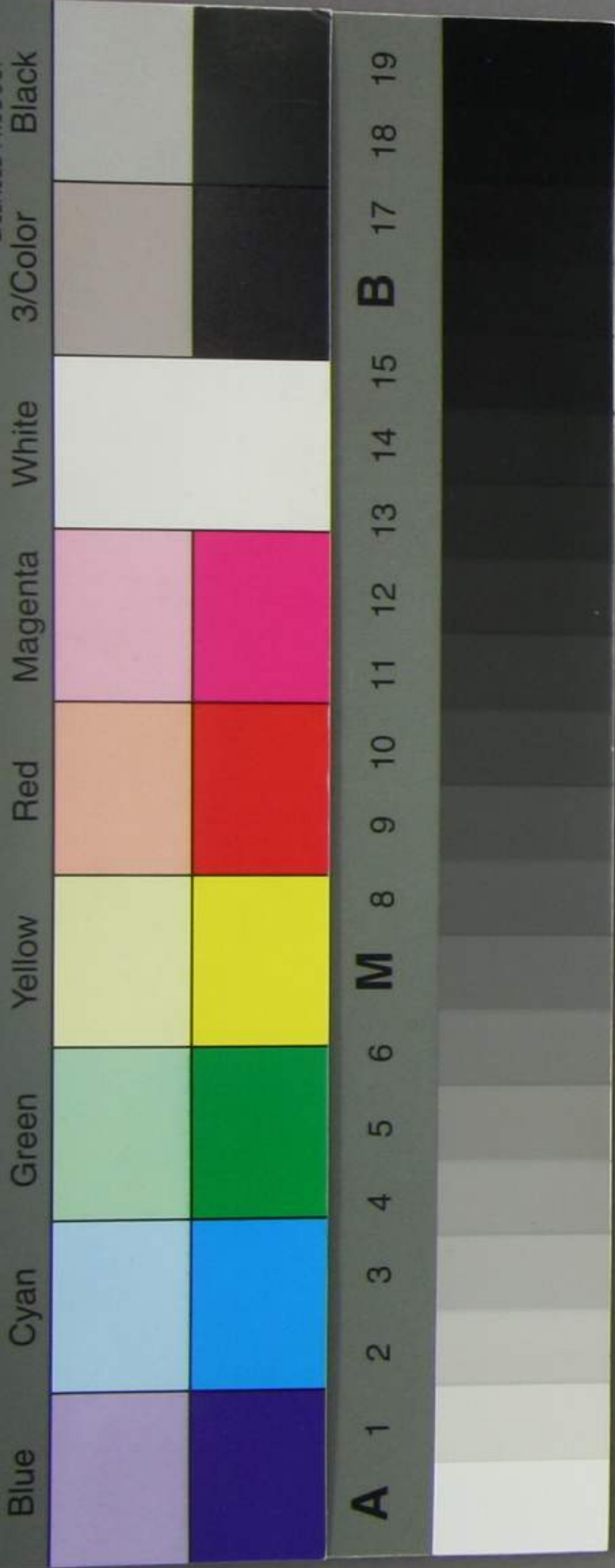
下野國都賀郡小代村

柴田三郎治

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



麻ヲ作ルニハ前年十月頃ヨリ犁ヲ以テ深ク耕シ土塊ヲ
凍氷セシム之ヲ俚俗冬耕ト云フ而シテ四月清明ノ候ニ
至リ土塊ヲ勻碎シ地表ヲ平ニス之ヲ畑ホバキト云フ夫
ヨリ肥料ヲ下シ種子ヲ播種セリ肥料ハ肥仕入ト稱シ人
糞 鯿粕 糠 藁灰 下夕肥 ニ前年十月頃ヨリ落葉等ヲ集メ厩
ニ散布シテ馬ニ踏マセタルモノ
ナリヨ調和シテ用フ種子ハ壹反及歩ニ六升 稠密ナル所ヲ拔
去ル為リマ播種セリ發芽ノ後拔上ケト稱シ生出ノ苗稠
密ナル所ヲ拔去ルト三度「スグ」ト稱シ風雨等ノ為メニ
乱レタルヲ直シ休レタルヲ起スト凡三度程ナリ若シ屢
風雨ノ来ルアレハ其度毎ニ此ノ如クナシ務メテ直長ナ



ラシム七月下旬（土用入前後）ニ至リ刈取ス之ヲ（ラキリト稱ス）夫ヨリ熱湯ニ浸シテ二三日モ日光ニ乾シ而シテ清水ニ浸シテ蒸床ニ入レ然ル後皮ヲ剥キ粗皮ヲ摩擦ニ去リテ乾燥シ仕揚ルモノナリ

右種収及ヒ製シ方ニ使用スル人夫ハ多クハ家族等ト共ニ躬ヲ為スモノニテ何程ノ人夫ヲ使用シ何程ノ賃錢ヲ拂フト云フ區別判然セズ然レトモ凡ソ之ヲ見積ルトキハ壹及歩ニ左ノ如クナルベシ

フユバリ	五人	畑ホヅキ	二人
肥仕入	人十 馬十匹代人夫三人	マキツケ	六人
扱上ゲ	九人	スグル	九人
ノラギリ	十人	湯カケ	七人
ホシカヘシ	五人	水カケ	五人

床廻シ麻剥キ	六人	扱引乾立共	十二人
仕揚ゲ	四人		
メ百。四人			

内男七十三人
此賃錢金七圓三十錢 但一人十錢ツ、
女三十人
此賃錢金二圓四十八錢 但一人八錢ツ、

外ニ
金七圓八十錢 人夫百。四人三度贈料
一飯ニ差五圓ツ、積リ
合金十七圓五十八錢
又肥料ヲ代金ニ積ルトキハ壹及歩ニ凡ソ左ノ如シ
人糞 三拾荷
代金七圓五拾錢 但壹荷二十五錢ツ、ノ積リ

鯿粕 五斗

代金三圓

糠 壹石五斗

代金貳圓五拾錢

下夕肥 十五駄

是ハ落葉等ヲ拾ヒ集メ厩ニ散布シテ馬ニ踏セタルモノ
ナリ故ニ代金ニ積リ難シ

藁灰 壹石

代金定メ難シ

合金拾三圓

外種子 六斗

自作ニ係ルヲ以テ代金前項ニ同シ

此人夫ノ賃錢ト肥料ノ代金トヲ總計スレハ

金三十圓五十八錢

右作費ヲ以テ収獲スル麻苧上作ノトキハ壺及歩ニ目形
十五貫目位ヲ得ルナリ依テ損益ヲ計算スレハ左ノ如シ

麻苧 十五貫目

代金貳十五圓

壹駄 三十貫目
ヲ云フ 二付本年辛圓ノ見積リ

此方、

金三十圓五十八錢 作費

指引

金五四五十八錢 不足

外ニ下夕肥、藁灰、種子ノ代金モ積ルトキハ若干

カ此不足ヲ増スナリ

右計算スレハ不足ヲ生スルカ如キト食氏麻苧ノ外麻売
麻葉根、麻アカ、苧アリ麻売ハ屋根ニ葺キ牆ト為シ麻葉根

麻アカハ肥料ニ用フ人夫ハ多ク家族ヲ使用シ其上麻畑
ハ一ヶ年換リニ作ルモノ故麻刈取ノ後ハ苳ヲ植付壹又
歩ニ壹石斗ヲ収獲シ其後麦ヲ播種シテ壹石五斗許ヲ得
ル此二作ハ麻作ノ肥料十分ニ用ヒタルガ為メニ別ニ肥
料ヲ用ヒザルナリ是等ヲ利益ノ部分ニ見做シ細カニ計
算スレハ壹割位ハ麻作ニ利益アルモノト漫ニ心得居ナ
リ
此地ハ麻苳ハ品位大芦等ノ如ク上品ニアラサレトモ海
水ニ侵シテハ最モ強靱ナリト云フ故ニ多ク濱方上總房州ヲ總云
フニ送り専ラ漁具ニ用フ

麻畑ハ埴土砂利交リニシテ少シク湿地ヲ適當トス

同國同郡板荷村戸長

山本吉郎

當村近傍ハ是迄麻作ノ外人参ヲ作りシガ諛品近年價格
下落シ且ツ捌方モ宜シカラス故ニ頃日ハ麻作ヲ以テ專
業トセリ

麻作ハ平原膏腴ノ畑ヨリハ山際砂利交リ俗ニ三影土ト
云フ地味ノ畑ニシテ十分肥料ヲ用フルヲ適當トス故ニ
本郡麻ヲ作ルハ皆山間ノ村々ナリ

肥料ハ苳油粕下ヲ肥ヒ人糞ヲ用フ然ルニ苳油粕凡ソ二
十年前ハ金一円ニ付二十五枚一枚五百目貯位ノ所明治初
年ニハ十五六枚ニ騰貴シ當今ハ四枚半位ナリ麻作ノ増
減ハ價格ノ昂低ニ因ルハ勿論ナレモ肥料ノ高下ニ因リ
テ大ニ増減ヲ爲スモノナリ苳油粕高貴ナルトキハ其買

入ノ資金ニ困却シテ麻作ヲ止ムルモノアリ

當村近傍ノ麻苧ハ品位凡ソ四等トセリ

袋苧 長六尺四寸

網苧 長六尺以下五尺迄ナリ以下同シ

網苧

道具苧

昨年麻苧ノ價格ハ一駄目十貫ニ付金三十七八円ヨリ四十四迄ニ賣却セリ其後追々騰貴スレトモ其節ハ既ニ所持スルモノ稀ナリ

作費ハ都テ區別ヲ立テ計算シ難シト虽凡ソ見積ルトキハ一反歩ニ尤ノ如シ

フユバリ 五人 畑ホキ、肥入、マキツケ共 十人

一番拔ヨリ三番拔迄六人 刈取湯カケ乾立共 十人

水入 三人 床廻シ麻剝ギ板引共 四十九人

メ八十八人

内十五人 刈取人夫等

此賃錢金二四二十五錢 但一人十五錢ツ、

七十三人 板引女肥運ヒ人夫等

此賃錢金九四十二錢五厘但一人十二錢五厘ツ、

合金十一円三十七錢五厘

又肥料ハ凡ソ尤ノ如シ

荏油粕 三十枚程

代金六円六十六錢六厘 一円ニ付四枚半ノ積リ

下ノ肥

是ハ枯草等ヲ集メ既ニ散布シテ馬ニ踏セタルモノナリ代金ニ積リ難シ

人糞

是ハ藤葉等ト混シ用フルヲアリ又用ヒサルヲモアリ前項ニ同シ

外種子

代金定ナ難シ

作費總計金十八圓。四錢二厘

右作費ヲ以一反歩ニ收獲スル麻苧ハ十四貫目斗ナリ其内上下品僅少ニテ中品多シ損益ヲ計算スレハ凡ソ尤ノ如シ

麻苧 十四貫目

代金十七圓七十三錢三厘 一駄^{三十貫目}得平均三十八圓積リ

此方ハ

金十八圓四錢二厘 作費

指引

金三十錢。七厘 不足

外ニ下々肥ト人糞、種子ノ代金モ積ルトキハ若干カ此不足ヲ増スナリ

右ノ如ク計算スレハ麻作ニ於テ利益ヲ見ザルカ如シト
虽凡麻刈取ノ後苳又ハ蕎麥ヲ種收セリ此苳又ハ蕎麥ヲ
刈取ノ上ハ大小麥ヲ播種ス麻作ヲ為シタル畑ニハ苳又
ハ蕎麥ヲ作ルモ肥料ヲ用ヒスレテ收獲セリ大小麥ヲ播
種スルニモ一反歩ニ僅カニ一圓許ノ肥料ヲ用テ十分ト
ス麻作ノ肥令残在スルカ故ナリ且ツ麻売ハ家根ニ蓄キ
麻葉根麻ヤカ等ハ肥料ト為ス皆農家必用ノモノナリ
麻作ハ價格ノ騰貴スルトキハ出産高多少増額スルト雖
凡格別ニ増額スルモノニアラサルベシ如何ト云フニ從

来本郡ニ於テ麻作スルモノハ各所持ノ畑ハ作替ノ為メ
残ス地所ノ外餘地ヲ存在スルモノ僅少ナレバナリ

同國同郡鹿沼

麻苧仲買人

石原弥七

當地ニ麻苧ヲ賣買スル問屋拾四軒仲買人百人許アリ鹿
沼組ト稱シ規定ヲ設ケシメリ折込等ノ不正品ハ取扱不
申事ニ致シ仲買人村ニヲ買入ニ廻ルトキハ麻ノ目印ヲ
記シタル扇子ヲ持ツトセリ

買入方ハ麻作人ト相對ニテ時價ヲ以買入其日毎ニ問屋
ニ到リ時價ヲ以賣渡スナリ故ニ買入ノ高下ニ因リテ利
益ヲ得ルモアリ又損失スル時モアリ口錢等ヲ定メテ賣
買スルニアラザルナリ

昨年ハ麻苧ノ相場騰貴セシカ為メニ本年ハ麻作余程増
多セリ或ル麻作人ニ聞クニ昨年ハ麻苧貳拾貫目許ヲ

収獲セシガ本年ハ麻畑ヲ増シ六拾貫目許収獲スルノ見
込ナリト云フ必ス總体ノ上ニ於テ五割位ハ増多スヘキ
見込ナリ

昨年大蘆村字八岡ノ柴田源藏ト云フ者壹駄三十貫ニ付
百八拾圓ニ賣却セリ尤極上等ノ稀物ニテ同人精選シテ
漸ク該品収獲高八貫三百目位ナリト云フ

朽木縣四等屬白石磨

本縣管内ニ麻苧ヲ出產スルハ

都賀郡 百六拾ヶ村

阿蘇郡 拾ヶ村

右郡村ニ於テ一ヶ年總出產高ハ

凡ソ壹万駄

此目形三拾万貫目

内

十分ノ一

十分ノ九

大芦苧 岡地苧

岡東苧 板荷束苧

網麻

品位ヲ大別シテ五等トス

大芦

一品物ト稱シ上中下ノ等級ナシ

岡地

以下各上中下ノ等級アリ

岡東

扱荷束

綱麻

大芦岡地ノ麻苧ハ最モ上等ニシテ全ク彼地ノ地味ニ限
 ルモノ、如シ岡東以下ハ何地ニテモ播種培養セハ出産
 スヘキ見込ナリ既ニ昨年西部ノ郡村ヨリ東部ノ郡村へ
 婚嫁シヌル一婦アリ右婦人家主ニ請フテ曰ク生家ニハ
 旧来麻作ヲ為ス當村ハ從來麻作ヲ為スモノナシ試ニ
 本年麻作ヲ為サント依テ幾千ノ畑ニ播種培養セシムル
 ニ果シテ岡東ニ劣ラザル麻苧ヲ収獲セリト云フ
 大芦岡地麻ハ多ク作ルモノニテ売戸四駄即百貳拾貫目
 許ナリ岡東以下多キハ売戸拾駄即三百貫目位ナリ

右麻苧賣買方ハ維新前ハ各地ニ問屋仲買人ト組合ヲ設
 ケ申合ノ規定等モアリシカ維新後其組合モナク不正ノ
 品多ク賣買スルモノアリ返テ聲價ヲ墜スノ弊アリ近來
 人民ノ申出ニ任セ旧慣ニ拠リ組合ヲ設ケ賣買セシム即
 チ左ノ五組ナリ

朽木組

東京送り品ヲ取扱フ

鹿沼組

東京及ヒ鉦子等へ送ル品ヲ取扱フ

栗野組

同上ニシテ最モ上等品而已ヲ取扱フ

扱荷組

水戸邊へ送ル品ヲ取扱フ

葛生組

東京及ヒ鉦子等へ送ル品ヲ取扱フ

昨年麻苧ノ相場騰貴ノ為メ本年ハ麻作增多ノ景況也平
 均凡ノ貳割位ハ昨年ノ産出高ヨリ増額スルノ見込ナリ
 本年管下上都賀郡佐目村依藤一郎調製スル所ノ麻作収

獲及ニ作費比較表勸業委員安田順次郎ヨリ本縣ニ差出
セリ即チ別表ノ如シ別冊甲号見

右各地ニ於テ聴取スル所ノ實際作費ト収穫ノ麻苧ト損
益ヲ計美スレハ皆多少ノ不足ヲ生シ更ニ利益ヲ見サレ
モノ、如シ然レハ朽木縣四等属白石磨及ヒ鹿沼仲買人
石原弥七等ノ云フ所ニ據レハ昨年来麻苧ノ價格騰貴ノ
為ノ本年出産高平均或割或ハ五割ヲ増額スルト云フ依
之考フルニ農家ノ利益トスル處ハ所謂躬耕シテ勞費ヲ
収ムルヲ常トスルカ故ニ右損益計美表ヲ見ルモ人夫ノ
賃銭作費ノ半額ニ至レリ其他麻作ノ後大ハ麦苳蕎麥等
ヲ播種シテ肥料ヲ用ヒサル等郡テ利益ノ部ハ屬シ柴
田三郎次ノ云フ如ク漫ニ割ノ利益ヲ得ル等ノ胸羨ヲ
為スモノナラン然ルニ昨年價格騰貴スルヲ以テ一層ノ
利益ヲ得ント欲シ實地ニ於テ麻作ヲ為スモノ若干カ増
多スルハ信スルニ足レリ此後過分ニ増額スルヤ如何ハ

山本吉郎云フ從來麻作ヲ為ス村落ニ於テハ年々作替ノ
畑ノ外余地ヲ残スモノ僅少ナリト果シテ然ラハ是迄麻
作ヲ為サ、ル村落ニ於テ産出スルニ至ラサレハ格別ノ増
額ヲ見ル能ハサルモノ、如シ
右廳取、儘供冬考候也

明治十二年八月

少書記官鈴木利亨